

農業学園だより

土 浦

★農業学園に関するお問い合わせ★
茨城県県南農林事務所経営・普及部門
(土浦地域農業改良普及センター)
担当：山家・森下・山口
Tel : 029-822-7254
Fax : 029-822-7370

農業学園広域講座「第2回レンコン講座」

2月20日(火)、霞ヶ浦環境科学センターにおいて、レンコン生産者研修会(第2回レンコン講座)が開催され、131名の生産者が出席し、うち土浦地域の学園生は5名が参加しました。

【レンコンの優良系統選抜の取組みについて】

均一で高品質なレンコンを周年出荷するための産地体制作りを目的とした種バス選抜の取組みについて、茨城県農業総合センター生物工学研究所から情報提供がありました。

現在、年内掘り2系統と年明け掘り2系統について、種バスの選抜と厳選を行ってきており、平成31年4月に生産者に配布する準備を進めていると説明がありました。

参加者からは、「選抜された4系統の生育する深さはどれくらいか?」、「選抜された系統に適した土質は?」、「花の位置や開花時期はどうか?」といった栽培特性等について質問があり、選抜系統に対する関心の高さが窺えました。



【レンコン黒皮症について】

レンコンの品質低下を招く黒皮症の防除には、石灰窒素が有効です。園芸研究所からは、石灰窒素をより効果的に使うためには、温度の違いから、春よりも夏に施用した方が効果的であるという情報が、試験結果に基づいて説明がありました。また、症例を見ながら、黒皮症による被害と、似た被害との見分け方について説明がありました。

【レンコンに適した土づくり】

園芸研究所からは、レンコンに適した土を作るうえで、過剰な施肥は意味がなく、土壌が蓄えることのできる養分量(保肥力)を考慮することが大切であると、説明がありました。保肥力は、土壌改良で改善でき、有機物等を投入して高めることができます。

最後に、適正な施肥を行い、コストを抑えて環境負荷軽減にも取り組んでいきたいと思います。(山口)

農業学園を振り返って

今年度は、先輩農業者の講話や病害虫対策や土づくり等の座学を実施しましたがいかがでしたでしょうか? 来年度も土浦地域農業学園が開講されますので、ぜひ足を運んでください!!
また、右のQRコードから今年度の講座内容を振り返ることができますので、ご活用ください。

【土浦】農業学園だより <http://www.w-pref.ibaraki.jp/nanminshu>



農業学園に対する
ご意見・ご要望はこちらまで!

029-822-7254

tak-yamaguchi@pref.ibaraki.lg.jp

農業学園「簿記講座」

1月24日(木)・29日(月)の2日間、土浦合同庁舎で「簿記講座」を開催し、8名の農業学園生が出席しました。この講座は「2日間で青色申告をできるようにすること」を目標とし、複式簿記の基礎を学びました。

初日は、まず、青色申告を行うメリットや損益計算書・貸借対照表について簡単に説明を行いました。その後、仕訳の方法について学習をし、練習問題を通じて知識の定着をはかりました。

学園生は、勘定科目一覧と仕訳の簡略表を見ながら、練習問題を解きました。

2日目は、1日目に学んだ知識の確認を行いながら、新たに仕訳帳からの転記と試算表の作成方法について学びました。

学園生は、ゆっくりと借方・貸方(左右)を確かめながら問題を解いており、最終的に全員が試算表の作成まで行うことができました。

学園生からは、「難しそうだったけれど、手書きで複式簿記が出来たので、自信になった。さっそく来年から青色申告をしてみたい」との感想が聞かれ、経営管理能力の向上につながる有意義な講座となりました。

(朝比奈)



農業学園

「GAP講座及び閉講式」

2月28日(水)、土浦合同庁舎において、農業学園GAP講座と閉講式が行われ、3名の学園生が参加しました。

【GAP講座】

食品の安全を確保し、よりよい農業生産を実現する取り組みが、Good Agricultural Practice (GAP) です。

今回は、NPO法人農業支援センターの富田氏からGAPの説明をいただきました。GAPとは?という基礎的な部分から、GAP認証の種類や市場での認証取得した農産物のニーズ等について説明がありました。

その後、GAP認証を受ける際にチェックすべき圃場や作業場のポイントを写真を見ながらディスカッションしました。学園生からは「写真だけでなく実際の事例をみてみたい」といった意見があり、将来的に導入していきたいと話していた学園生もいました。



【閉講式】

閉講式では、平成29年度の農業学園を振り返って話し合いました。学園生からは「栽培品目ごとの講座は勉強になった」「地区プロジェクト発表会は、若手が課題へ挑戦する姿が刺激になった」との意見があがり、農業学園を有効に活用していました。来年度は「来年度は営農計画の立て方を聞いてみたい」、「農業と育児について話を聞いてみたい」が聞きたいといった話もあり、ニーズに応えられる学園作りに努めていきたいと思えます。

来年度もどうぞよろしくお願い致します!

